

## 「トランスポートビークル」が広く使用される

### はじめに .....

高齢化の波が押し寄せつつある今日、歩行機能が劣ってきた高齢者が、その運動不足解消と公園などの屋外を散歩する楽しみを見出すためには、介助者による何らかの手助けが必要となる。また、高齢者ばかりでなく、障害のある子ども達も家族と共に、公園などを散歩することができれば、楽しみを共有できよう。このような目的から(財)自転車産業振興協会技術研究所では、数年前から「トランスポートビークル」と称した用具を開発してきた。

### 「トランスポートビークル」とは .....

この用具は、車いすと自転車をドッキングしたようなものであり、前方の車いすには障害者と高齢者を乗せ、後部の駆動ユニットには介助者が乗車し駆動する移動用具である。

もともと、障害児をお持ちのお母さんのニーズに対応して開発を進めてきたもので、お店の中での使用なども考慮し、駆動ユニット部分が、車いすの下部に収納できるようになっている。さらに、車いすと駆動ユニットは工具を使用せずに分解が可能である。材質はアルミ合金でできており、総重量は23kgである。



### ユニバーサル用具開発調査業務 .....

この事業は、平成11年度事業として、(財)都市緑化技術開発機構が募集した「ユニバーサル施設・用具開発調査業務」に応募し、一

次審査、二次審査を通過し、採用されたものである。

各地の都市公園等のレクリエーション空間において、高齢者、障害者の方々が健常者と

共に楽しむために必要な合理性や機能性を備えた、ユニバーサルデザイン施設及び用具の技術開発を行い、広く全国に紹介し、都市緑化空間の利用をさらに推進しようとするものである。設置後のモニター調査の結果を翌年の改良に反映し、再度モニターを繰り返す、3年間の継続事業と位置づけられている。同機構としても新規の事業とのことであり、今後の成果が期待される場所である。

### 各地の公園に納入

初年度は、北は北海道から南は兵庫県までの全国6ヶ所の公園に、合計14台を供与し、モニターを開始したところである。供与式は、東京都立川市にある昭和記念公園にて関係者が集まり行われた。同時に、介助ボランティアも集合し、5台のトランスポートビークルを使用し、機器の開発コンセプトや取扱説明の後に、試乗会を実施した。新しい乗り物であることから、最初は、とまどっていた人達も、時間と共に徐々に慣れてきたようである。あまりスピードを出して走るものではなく、車いすを押して歩くには困難なところなどでは、歩くより楽に、早く、長い距離を移動すること

ができる。また、公園内では、あまりその機能は使われないと考えるが、施設内での移動や、登り坂では、駆動ユニットを車いすの下部に収納しての使用場面も出てこよう。

### 今後に向けて

今回紹介した「トランスポートビークル」は、製品化して販売されている状況ではない。現状では、高速で急カーブを切ると転倒の恐れがある。車いすに乗車するときスタンドをセットする必要があるなど、いくつかの問題点も含んでいる。しかし、このような形で皆さんに使用してもらい、利便性や改良点を出してもらうことにより、製品化の動きも加速されるであろう。いつの日か、全国各地で見かけられるようになることを願っている。

(技術研究所 考査室 高橋義信)



神戸市あわせの村